

2024年度事業計画

施設名 ガーデンエル

施設長名 六川 徳子

1. 運営目標

「アツタエルロイ」あなたこそ私を顧みられる神です。

施設名でもあるこの聖句を基本に、ガーデンエルを必要とする乳幼児を受け入れて、次の養育者へ丁寧につないでいく。

里親支援機関B型として、里親支援を充実させていく。

新しい社会的養育ビジョンで求められる10年計画をガーデンロイと連携して準備する。

2. イエス団113年目からの挑戦 ～2040年を目指して～

2023年度分析と2024年度の計画

I. 地域の現状と課題の把握

【2023年度分析】

- 10年計画にある里親支援機関B型の活動として、新規里親開拓のための広報活動、新規里親の調査・登録、里親会との交流、MY里親への支援等、里親支援専門相談員を中心にロイと共に積極的に行うことができた。
- 東大阪市における各種計画の把握に努めた。
- 2027年に東大阪市で児童相談所が設立される。

【2024年度計画】

- 施設によるより家庭的な養育支援だけでなく、ロイと共に家庭養育の場としてのMy里親を更に開拓する。
- 東大阪市国土強靱計画に示された大規模自然災害で想定されている被害に対して備える。
- 東大阪市第5期地域福祉計画とリンクできるものは積極的に取り組む。

II. 施設内を意識した運営

【2023年度分析】

- 依頼の半数以上が乳児であったが、乳児ホームの体制上、すべてのニーズに対応することは難しかった。
- 年度途中の退職等で職員体制が整わなかったことから、一時保護の依頼に対して、十分な対応が取れなかった。
- 一時保護ユニットを設定、長期入所児童が増えれば、措置ホームへ変更できる体制で運用開始する。年度途中から長期入所の一時保護児童が多くなり、一時保護、ショートステイを措置ホームで受け入れた。
- 一時保護ホームのアセスメントを精査、受け入れからの情報整理、家族の話題に関する事、支援目標の整理をしたことで、よりよい支援につながっている。
- 外遊びや午後からの遊びでは、ユニットを超えて年齢別で遊ぶことが自然なかたちでなされている。
- 措置ホームでは長期を見据えた支援ができ、安定したホーム運営ができた。
- 新型コロナウイルスが5類となったことで、引き続き感染症対策を行いながら、施設外での活動、食育など少しずつ、コロナ禍以前と同じような生活が出来るようになりつつある。
- 社会の動きに合わせて、施設内でも様々な感染症が流行し、病児対応を都度見直しながら実施した。
- 入所時は児童と家族等の感染症や健康の情報をより詳しく収集し、児童の状態に合わせて必要な隔離対応を行った。
- 全職員のスーパーバイズを1,2年目は毎月、3年目以上は基本2か月に1回で実施したが、定期的な実施ができないことがあり、引き続き時間の確保が課題となった。
- 階層別の目標とする職員像について、十分な活用ができず、施設内の共通認識とは出来ていない。
- 事故や対応困難は、会議にて職員全体で、課題や対応、環境構成についての検討を行い、養育、支援の改善、環境整備につなげている。
- 防災対策として、誤作動の多かった熱感知器をすべて入れ替え、蓄電池型照明を導入した。
- ホーム会議では、事前に子どもの課題、議題、優先順位を整理しておくことで、限られた時間で活発に意見交換がされている。
- 嘱託医とのマンスリーミーティングを火曜日の午後に実施。色々な職員が参加し、子どもについて意見交換の機会を持つことが出来た。

【2024年度計画】

- 子どもの生きる力となるよう大人との基本的信頼感や愛着関係を育む。
- 子どもが心身ともに豊かに成長できるよう、子どもの社会経験など様々な経験の機会を作る。
- 子どもの遊びの内容を充実させ、発達に応じた遊びができる環境を整えていく。
- 1歳以上の一時保護ユニットを継続する。乳児はこれまで通り、一時保護でもひよこホームで受け入れる。
- 一時保護について、アセスメントをより充実させ、関係機関と協働し、より良い支援につなげる。
- 措置児、一時保護児の関係なく、退所時は、関係機関と協働して、家庭引取であっても、児童養護施設等への措置変更であっても、丁寧に次の養育者へつないでいく。
- 階層別の目指すべき職員像、スーパーバイズ、OJTを活用した人材育成の体制を整える。
- スーパーバイズの時間を確保し、スーパービジョンの内容を充実させる。
- 事前準備、進行、議題などを工夫しながら、活発な意見交換がなされる会議にしていく。
- 感染症対策、病児対応を都度見直し、看護師を中心に衛生、感染症対策、病児対応を職員全体に浸透させる。

- ・自己評価を行い、事業の点検と改善を行う。

III. 地域を意識した運営

【2023年度分析】

- ・里親支援機関B型の活動として、My里親12家庭と新規登録にむけた里親2家庭の支援を児童相談所と共に行っている。
- ・東大阪の里親会に積極的に参加し、様々な交流をする中で良い関係を築いている。
- ・地域の商店街で里親相談会を隔月で実施している。地域で認知されつつあるが、平日のため、来談者が少ないことから、来談者が来やすい土日の開催など、開催の仕方について見直す必要がある。
- ・東大阪市役所、八尾アリオ、地域の商店街での里親相談会には、これまでの施設運営の実績、効果的な広報が功を奏し、関心の高い来場者を得ることができた。
- ・地域の子育て支援として、可能な限りショートステイの受け入れを行った。また、東大阪子ども見守り相談センターとショートステイの受け入れについて情報共有を行った。
- ・東大阪市東地区地域福祉ネットワーク推進会議に参加している。

【2024年度計画】

- ・東大阪市東地区地域福祉ネットワーク推進会議に積極的に参加する。
- ・災害時の福祉避難所の機能を研究する。
- ・里親の新規開拓を進めつつ、里親家庭への支援の充実を目指す。
- ・乳児院の高機能化・多機能化に向けて、ニーズに応えられる事業の在り方、体制を模索していく。

IV. ミッションステートメント 2009 (MS2009)

【2023年度分析】

- ・職員会議で聖書の言葉に触れ、MS2009への理解を深めることができた。
- ・主の祈りを職員会議前に祈り、気持ちを整えて会議を行うことができた。

【2024年度計画】

- ・主の祈りを職員会議前に祈る。
- ・職員会議で聖書の言葉を聞く。
- ・新任研修でキリスト、賀川の思いを学ぶ。
- ・SGDs『⑩平和と公平をすべての人に』を目標に、ガーデンエルが乳幼児の安心安全な生活の場であること、また、退所後の生活が穏やかで最善の利益が守られるよう受け入れ先の環境を整えて送り出す。

V. その他

【2023年度分析】

- ・災害時のため備蓄内容を点検し、食品関係はローリングストックで対応している。賞味期限で消費する時の事を考えて普段の献立に組み込みやすい食品を選んでいる。
- ・備蓄食はアレルギーを考慮して卵を使用しない献立を作成、幼児食20名、大人はエルロイ合わせて30名、水は一人1日3リットルで計算して、6日間分を備蓄できるようにしている。
- ・障がい者雇用のサポートとして、シルバー人材センターから派遣を1名雇用している。
- ・2024年度の大規模修繕に向けて、大阪府、業者と協議して、補助金申請に向けて準備を行った。

【2024年度計画】

- ・外装、室内の壁等、15年目の大規模修繕を行う。必要箇所は都度修繕する。
- ・災害に対する備えを見直し、強化する。

3. 利用者人数計画

クラス・事業	ひよこ (0歳児)	たんぼぼ (1-3歳児)	ちゅうりっぷ (1-3歳児)	ひまわり (1-3歳児)	さくら (1-3歳児)	合計
認可定員数	6	6	6	6	6	30

4. 利用者サービスの計画（健康・栄養・衛生・安全管理等）

ア) 健康管理

- ・年2回の健康診断実施

イ) 栄養管理

- ・栄養指導・栄養管理技術の向上のため教育研修事業、講演会などに参加する。
- ・厨房の職員も生活の場に入り、豊かな食生活につなげる。
- ・個々の成長・発達、心身の状態、体調など必要に応じた食事提供を行う。
- ・実態の把握とアセスメントを行い、献立の作成、調理に配慮する。
- ・職員へ食生活や栄養に関わる知識の普及に取り組む。
- ・非常災害時における栄養管理についての整備を行う。

ウ) 衛生管理

- ・消毒を徹底し、感染症の予防、感染拡大防止に努める。
- ・感染症発生時のマニュアルを整理し、看護師による衛生についての講習を定期的実施する。

エ) 安全管理

- ・ヒヤリハットの記録、共有を徹底する。
- ・危機管理委員会及び避難訓練を毎月取り組む。
- ・事故を想定した訓練、救急救命の訓練も定期的実施する。
- ・不審者対応を強化し、敷地内に侵入しづらいよう整備する。

5. 職員処遇の計画（昇給、採用退職、福利厚生、研修等）

ア) 昇給

- ・定期昇給を行う

イ) 採用退職

- ・4月から見学説明会と採用試験を実施する。
- ・7月に次年度の意向調査を実施し、入所状況、社会情勢を踏まえて、採用人数を決定する。

ウ) 福利厚生

- ・職員交流ができる機会を設ける。
- ・退職職員に感謝のプレゼントを手渡す。

エ) 研修

- ・キャリアアップを見据え、可能な限り研修を受講する。
- ・階層別の研修計画に沿って、職員それぞれの受講計画を立てる。

6. 施設・設備の整備計画（10万円以上記載）

整備の名称	金額	財源（補助金等の金額）
大規模修繕	35,000,000 円	・国庫補助金(次世代育成支援対策施設整備補助金) ・その他の積立特定預金積立金

7. 借入金償還予定（単位・円）

No	借入先	契約 年月日	当初 借入金額	利率 (%)	期間 (年)	最終 年度	前年度 3月末残	支払 月
1	福祉医療機構	2010.2.9	70,000,000	1.6	15	2024	2,160,000	5.8

上記借入先に対する今年度償還金および償還財源別内訳表

No.	償還金			償還財源別内訳（左記合計金額の内訳）			
	元金	利息	合計	補助金	民改費繰入		
1	2,160,000	12,000	2,172,000		2,172,000		2,160,000

8. 会計予算の状況

- ・暫定定員 27 名と措置児童数減による収入減が見込まれ、人件費率が大阪府下の乳児院の多数と同じく 80%を超える可能性がある。
- ・暫定定員からの脱却の努力を引き続き行う。また、入所状況に応じて、今後の定員数の見直しについて検討する。
- ・修繕、機能転換に備え積み立てを行う。
- ・福祉医療機構からの借入金の返還が 2024 年 8 月で終了。
- ・大規模修繕を実施するため、次世代育成支援対策施設整備補助金を活用、自己負担分は、その他の積立特定預金積立金を取り崩す。

9. その他特記事項

- ・特になし

10. 今年度行事等計画書（施設名）

- ・ホーム単位での季節の行事や誕生日会を行う。
- ・厨房からの旬の食材を用いた家庭料理を皆で楽しむ。
- ・厨房と協働して、計画的に食育を実施する。
- ・感染症の流行状況を見ながら、子どもの発達に合わせた外出を計画する。
- * 定例行事（職員会議、月例保護者会等）
- ・子ども：ホーム単位で季節の行事を実施。
- ・職員：毎日 職員朝礼、エルロイ合同申し送り、エル申し送り（朝・夕）
毎月 施設長・事務長会議、主任会、ユニットリーダー会議、エル職員会議、ホーム会議、ごちそう会議、保健衛生会議、危機管理会議、人権委員会、里親支援会議、情報共有会議、子どものための委員会、厨房会議